令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島市	学校名	広島市立本川小学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	小学６年生・総合的な学習の時間	時数等	１５時間

目標・人権教育のねらい	・ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。 ・戦争のもたらす不幸や原因を考え、平和を築き守り、発信することができるようにする。
実施した内容	・被爆した当時の様子や本川小の被爆者であった居森清子さんについて、清子さんの夫である居森公照さんから話を聴く。（１時間） ・清子さんの生涯を描いた絵本「本川をつたえて」や公照さんの話を基に、被爆した当時のこどもたちの思いについて考える。（３時間） ・平和学習発表会で、被爆した当時のこどもたちの様子や人々の願い、平和への思いを劇や歌で伝える。（１０時間） ・学習を振り返る。（１時間）
工夫した点	（指導上の工夫） ・横浜と広島をリモートでつなぎ、居森公照さんから直接話を聴く機会を設けた。その際、居森清子さんとの事に加えて、公照さんの幼少期の暮らしについて話していただいた。 ・相手意識や課題意識をもちながら活動できるよう、居森公照さんや絵本「本川をつたえて」の作者である奥原球喜さん（本川小学校元校長）を平和学習発表会に招待した。 （地域や関係機関との連携） ・本川小学校平和資料館のガイドボランティアや奥原球喜さんを講師に招き、教員対象の研修会を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・広島市教育委員会が策定した平和教育プログラムを各教科等の学習に位置付け、国語科や社会科等の時間に、主な教材である「ひろしま平和ノート」を活用した授業や地域の人材や被爆関連施設を活用した学習を行った。
事業成果	・知識的側面：「原子爆弾等の核兵器に関する知識・理解」 ・広島市に原子爆弾が投下された年月日時・被害 ・広島市以外に原子爆弾が投下された都市・炸裂年月日時 ・非核三原則の内容 【結果】事業開始時８１．６％：⇒事業終了間際８１．８％ ・価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」 【結果】事業開始時７７．９％：⇒事業終了間際７８．６％ ・技能的側面：「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」 【結果】事業開始時８３．１％：⇒事業終了間際８５．７％ ：「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」 【結果】事業開始時８０．５％：⇒事業終了間際８７．１％ 【考察】計画的に平和教育を実施したことで、考えを深めたり自分の実生活と結び付けて考えようとしたりすることができたと考える。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	広島市	学校名	広島市立本川小学校

人権課題	その他（平和教育）	対象学年・取り扱った教科等	小学６年生・総合的な学習の時間	時数等	８時間

目標・人権教育のねらい	・ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として、世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。 （広島市における平和教育の目標） ・戦争のもたらす不幸や原因を考え、平和を築き守り、発信することができるようにする。
実施した内容	・被爆の恐ろしさや本川小の歴史について説明するための原稿や資料を作成した。（４時間） ・伝えたいことがより相手に伝わるよう、学年内で説明し合い、原稿や資料を見直した。（２時間） ・他都市の修学旅行生、広島市の教員、保護者などに伝えた。（１時間） ・学習の振り返り、次回の活動への課題を共有した。（１時間）
工夫した点	（指導上の工夫） ・事実を伝えるだけでなく、相手と対話し、互いに戦争や平和について語り合うことを目的として取り組んだ。 ・相手意識や課題意識をもちながら活動できるよう、本校の１年生、広島市の６年生、他都市の修学旅行生、広島市の教員、保護者と伝える相手を変えながら繰り返し取り組んだ。 （地域や関係機関との連携） ・平和について発信していく使命感や責任感を感じられるよう、居森公照さん（本川小学校で被爆した居森清子さんの夫）からお話を聞いたり、実際にお会いしたりした。 ・本川小学校平和資料館のガイドボランティアを講師に招き、教員対象の研修会を行った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・広島市教育委員会が策定した平和教育プログラムを各教科等の学習に位置付け、国語科や社会科等の時間に、主な教材である「ひろしま平和ノート」を活用した授業や地域の人材や被爆関連施設を活用した学習を行った。
事業成果	・知識的側面：「原子爆弾等の核兵器に関する知識・理解」 ・広島市に原子爆弾が投下された年月日時・被害 ・広島市以外に原子爆弾が投下された都市・炸裂年月日時 ・非核三原則の内容 【結果】事業開始時８１．６％：⇒事業終了間際８１．８％ ・価値的・態度的側面：「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」 【結果】事業開始時７７．９％：⇒事業終了間際７８．６％ ・技能的側面：「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」 【結果】事業開始時８３．１％：⇒事業終了間際８５．７％ ：「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」 【結果】事業開始時８０．５％：⇒事業終了間際８７．１％ 【考察】計画的に平和教育を実施したことで、考えを深めたり自分の実生活と結び付けて考えようとしたりすることができたと考える。